

轟貝塚Ⅱ

— 平成23～28年度（第9～13次）発掘調査概要報告書 —

2017

熊本県宇土市教育委員会

序 文

宇土市を含む有明海沿岸には、その豊かな生物資源を背景に、貝塚をはじめとした縄文時代の遺跡が多数残されています。なかでも轟貝塚は古くから世に知られ、今日著名な数々の研究者により調査が行われてきた歴史を持ち、九州の縄文時代前期を代表する轟式土器の標式遺跡であることと併せ、考古学史上非常に重要な遺跡です。

轟貝塚は昭和33年に宇土市の史跡に指定され、教育委員会ではこれまでに範囲確認調査や過去に大学等が行った調査資料の再整理などを実施してきました。本書は、それに続く貝塚周辺発掘調査及び貝塚中心部の発掘調査の概要報告です。特に貝塚中心部の調査は、過去に慶應義塾大学を中心に調査が行われてから約50年、京都大学が最初に発掘調査をした時から約100年ぶりの調査であり、過去の調査成果に立脚しながらも、当時は明らかにし得なかった新たな事実が確認されています。

これらの調査を進めるにあたって御指導・御協力いただきました文化庁記念物課ならびに熊本県教育庁文化課、宇土市重要遺跡保存活用検討委員会の先生方をはじめ、関係各位に心より感謝申し上げます。

平成29年 3月

宇土市教育長 太田 耕幸

例 言

- 1 本書は、熊本県宇土市宮庄町に所在する宇土市指定史跡・轟貝塚において平成23～28年度に行った発掘調査の概要報告書である。発掘調査は、宇土市内遺跡発掘調査等事業（国庫補助事業）に伴い宇土市教育委員会が実施した。
- 2 調査は平成23～25年度には遺跡の範囲確認調査として、平成26～28年度は過去に行われた調査の再発掘調査を基本として、貝塚中心部に対し実施した。調査地は宇土市宮庄町字居屋敷、須崎、及び石橋町に所在する。
- 3 発掘調査は芥川博士（宇土市教育委員会文化課技師）が担当した。
- 4 本書に掲載した調査位置図の作成は山口陽子、廣瀬恵子、中川ゆかり、内田美和、秦翔平、松浦正朋、竹村南洋、及び芥川が行った。
- 5 発掘調査時及び遺物の写真は芥川が撮影した。
- 6 本書の挿図で用いた平面直角座標及び方位は世界測地系を使用している。
- 7 本書の執筆・編集は芥川が行った。
- 8 出土遺物その他の関連記録は、宇土市教育委員会（宇土市新小路町95）に収蔵・保管している。

本文目次

第1章 序章	第3章 貝塚中心部の発掘調査
第1節 調査に至る経緯…………… 1	第1節 調査の目的と方法…………… 7
第2節 調査の組織…………… 1	第2節 調査の成果…………… 7
第3節 位置と環境…………… 2	第4章 総括…………… 10
第4節 轟貝塚における 過去の調査について…………… 4	
第2章 貝塚周辺部の発掘調査	
第1節 調査の目的と方法…………… 6	
第2節 調査の成果…………… 6	

挿図目次

図1 轟貝塚周辺遺跡地図……………	3	図3 貝塚中心部調査位置図……………	5
図2 貝塚想定範囲と 周辺発掘調査位置図……………	5	図4 轟貝塚基本層序及び 土地利用の変遷……………	12

表目次

表1 轟貝塚調査史……………	4
----------------	---

写真目次

写真1 標準土層断面（4 T南東壁）……………	9
写真2 集石検出状況（8 T）……………	9
写真3 集石に伴う遺物……………	9
写真4 5号人骨検出状況（8 T）……………	10



轟貝塚の位置（左：1/20,000,000 右：1/2,000,000）